

1

次の取引の仕訳を示しなさい。

- a. 単純総合原価計算を採用している青森工業株式会社は、工場の従業員に対する退職給付費用について、月末に当月分の消費高 ¥810,000 を計上した。
- b. 福島製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を消費材料勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は @¥470 であり、実際消費単価の計算は総平均法によっている。
- | | | | |
|--------|--------|--------|------------|
| 前月繰越高 | 2,000個 | @¥450 | ¥ 900,000 |
| 当月仕入高 | 6,000" | " ¥490 | ¥2,940,000 |
| 当月消費数量 | 7,000" | | |
- c. 株式会社岩手製作所は、月末にあたり、工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、第1工程の完成品はすべて第2工程（最終工程）に引き渡している。
- | | | | |
|------|------------|------|------------|
| 第1工程 | ¥3,890,000 | 第2工程 | ¥5,640,000 |
|------|------------|------|------------|
- d. 個別原価計算を採用している秋田製作所では、製造指図書#3の製品全部が仕損じとなり、新たに製造指図書を発行して、代品を製造することにした。ただし、製造指図書#3に集計された製造原価は ¥230,000 であり、仕損品の評価額は ¥12,000 である。
- e. 個別原価計算を採用している山形製作所は、次の製品を受注先に発送した。よって、売上高および売上原価を計上した。

	A製品（製造指図書#101）	B製品（製造指図書#102）
売上高（掛け）	¥4,300,000	¥3,500,000
製造原価	¥2,580,000	¥2,100,000

- f. 工場会計が独立している宮城工業株式会社の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費 ¥650,000 を計上した。ただし、このうち ¥520,000 は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は本社のみ に設けてある。（本社の仕訳）

2

北海道製作所は、個別原価計算を採用し、X製品（製造指図書#1）とY製品（製造指図書#2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (2) 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。
- (3) X製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。
- ただし、
- i 月初仕掛品はなかった。
 - ii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,300 の予定賃率を用いている。
 - iii 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

資料

a. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥11,375,000	¥7,540,000
年間予定直接作業時間	17,500時間	13,000時間

b. 製造部門の当月直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1 860時間	製造指図書#2 600時間
	製造指図書#2 620時間	製造指図書#1 500時間

c. 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	25kW×1,280時間	28kW×1,000時間	——	15kW×200時間
修繕部門費	修繕回数	6回	2回	/回	——

d. 完成品数量 X製品（製造指図書#1） 80個

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
- a. 材料の消費数量を計算する方法のうち、材料の受け入れ・払い出しのつど、材料元帳などに数量を記入して、その払出数量を消費数量とする方法を [ア] という。
- b. 製造業における損益計算書の売上原価は、当期製品製造原価を用いて算出・表示される。したがって、当期製品製造原価の内訳の明細を示す [イ] を作成し、損益計算書に添付する。
1. 完成品原価月報 2. 棚卸計算法 3. 継続記録法 4. 売上製品原価月報 5. 製造原価報告書
- (2) 群馬製作所は、等級別総合原価計算を採用し、1級製品と2級製品を製造している。下記の資料によって、次の金額を求めなさい。ただし、等価係数は、各製品の1個あたりの重量を基準とし、売上製品の払出単価の計算は、先入先出法による。
- a. 当月の1級製品の製造原価 b. 当月の2級製品の売上原価

資料

① 当月完成品総合原価 ¥4,800,000

製 品	/個あたりの重量	当月完成品数量	月 初 製 品		月 末 製 品	
			数 量	単 価	数 量	単 価
1 級 製 品	150 g	2,400個	300個	¥1,150	200個	¥()
2 級 製 品	120 g	2,000個	100個	¥ 920	50個	¥()

- (3) 標準原価計算を採用している埼玉製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、解答欄の () のなかに不利差異の場合は (不利)、有利差異の場合は (有利) と記入すること。

a. 月末仕掛品の標準原価 b. 賃 率 差 異 c. 製造間接費差異

資料

① 標準原価カード

M製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金 額
直接材料費	3kg	¥ 500	¥1,500
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	¥1,000	¥2,000
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2時間	¥1,100	¥2,200
	製品/個あたりの標準原価		¥5,700

② 実際生産数量

月初仕掛品 100個（仕上り程度60%）
完 成 品 900個
月末仕掛品 200個（仕上り程度40%）

③ 実際直接労務費
（実際直接作業時間

¥1,782,000
1,800時間 実際賃率 ¥990）

④ 実際製造間接費発生額

¥2,050,000

- (4) 茨城製作所において、X 製品を2,000個製造・販売したときの直接原価計算による損益計算書から、次の金額を求めなさい。
- a. 販売数量が4,000個のときの貢献利益 b. 損益分岐点の売上高
- c. 目標営業利益 ¥540,000 を達成するための売上高

茨城製作所 損 益 計 算 書		
I 売 上 高		2,400,000
II 変動売上原価		1,080,000
変動製造マージン		1,320,000
III 変動販売費		600,000
貢 献 利 益		720,000
IV 固 定 費		
1. 固定製造間接費	320,000	
2. 固定販売費および一般管理費	130,000	450,000
営 業 利 益		270,000

4 栃木工業株式会社は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 工場消耗品勘定とA組製造勘定に必要な記入をおこない、締め切ちなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 組別総合原価計算表を完成しなさい。
- ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 2,000個 @¥800 ¥1,600,000

工場消耗品 400〃 〃〃120 ¥ 48,000

仕 掛 品 A 組 600個 (仕上り程度50%)

 ¥978,000 (うち、素材費 ¥459,000 加工費 ¥519,000)

 B 組 500個 (仕上り程度40%)

 ¥500,000 (うち、素材費 ¥400,000 加工費 ¥100,000)

ii 素材の消費高の計算は移動平均法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。

iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥860 の予定賃率を用いている。

iv 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

v 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

vi 組間接費勘定を設けている。

取 引

- /月 7日 素材1,000個をA組のために消費した。
- /2日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。
- 素 材 4,000個 @¥850 ¥3,400,000
- 工場消耗品 650〃 〃〃120 ¥ 78,000
- /4日 素材2,000個をB組のために消費した。
- 20日 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。
- 外注加工賃 ¥806,000 電 力 料 ¥138,000
- 25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。
- 賃 金 総 額 ¥1,820,000
- うち、控除額 所 得 税 ¥146,000 健康保険料 ¥81,000
- 3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は300個であった。よって、消費高を計上した。(組間接費)
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。
- A 組 1,400時間 B 組 600時間 間接作業 100時間
- ③ 健康保険料の事業主負担分 ¥81,000 を計上した。
- ④ 当月の外注加工賃について、次のとおり消費高を計上した。
- A 組 ¥400,000 B 組 ¥393,000
- ⑤ 当月の間接経費について、次の資料を得たので、消費高を計上した。
- 電 力 料 当月支払高 ¥ 138,000 当月測定高 ¥132,000
- 保 險 料 6 か 月 分 ¥ 270,000
- 減価償却費 年間見積高 ¥4,632,000
- ⑥ 組間接費 ¥820,000 を、次の割合で配賦した。
- A 組 70% B 組 30%
- ⑦ 当月の製造数量について、次の資料を得た。

	完成品数量	月 末 仕 掛 品 数 量
A 組	1,400個	200個 (仕上り程度55%)
B 組	2,000個	500個 (仕上り程度60%)

- ⑧ 当月の賃金実際消費高 ¥1,827,000 を計上した。
- ⑨ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

部門費振替表

平成〇年/月分

相互配賦法

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,596,000	719,000	490,000	252,000	135,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修繕回数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(2)

	借方	貸方

(3)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
1,427,000						直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	80個
						製品単価	¥

3

(1)

ア		イ	
---	--	---	--

(2)

a	当月の1級製品の製造原価 ¥	b	当月の2級製品の売上原価 ¥
---	----------------	---	----------------

(3)

a	月末仕掛品の標準原価 ¥	b	貸率差異 ¥ ()
c	製造間接費差異 ¥ ()		

(4)	a	販売数量が4,000個のときの貢献利益 $\yen$	b	損益分岐点の売上高 $\yen$	c	目標営業利益 $\yen$ 540,000を達成するための売上高 $\yen$
-----	---	----------------------------	---	------------------	---	---

4	(1)	借方		貸方	
		/月 7日			
		/2日			
		/4日			
		20日			
		25日			
		3/日	①		
			②		
			③		
			④		
			⑤		
			⑥		
			⑦		
			⑧		
			⑨		

(2)	工場消耗品		A組製造	
	1/1 前月繰越	48,000	1/1 前月繰越	978,000

(3) 組別総合原価計算表 平成○年/月分				
摘要		A組	B組	
組直接費	素材費			
	加工費			
組間接費	加工費			
当月製造費用				
月初仕掛品原価	素材費	459,000	400,000	
	加工費	519,000	100,000	
計				
月末仕掛品原価	素材費		420,000	
	加工費	198,000		
完成品原価				
完成品数量		1,400個	2,000個	
製品単価		$\yen$	$\yen$	

試験場校	受験番号	原計の2得点	総得点

1

	借	方	貸	方
a	製	造	退職給付費用	810,000
b	材料消費価格差異	70,000	消費材料	70,000
c	第2工程製造	3,890,000	第1工程製造	3,890,000
	製	5,640,000	第2工程製造	5,640,000
d	仕	損	製	造
	仕	費		230,000
e	売	掛	売	上
	売	原	製	品
f	減価償却費	130,000	建物減価償却累計額	650,000
	工	場		520,000

2

(1)

部門費振替表
平成〇年/月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,596,000	719,000	490,000	252,000	135,000
動力部門費	kW数×運転時間数	252,000	128,000	112,000	—	12,000
修繕部門費	修繕回数	135,000	90,000	30,000	15,000	—
第1次配賦額		387,000	218,000	142,000	15,000	12,000
動力部門費	kW数×運転時間数	15,000	8,000	7,000		
修繕部門費	修繕回数	12,000	9,000	3,000		
第2次配賦額		27,000	17,000	10,000		
製造部門費合計		1,596,000	954,000	642,000		

(2)

借	方	貸	方
第1製造部門費	8,000	製造部門費配賦差異	8,000
製造部門費配賦差異	4,000	第2製造部門費	4,000

(3)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
1,427,000	1,898,000	第1	860	650	559,000	直接材料費	1,427,000
		第2	600	580	348,000	直接労務費	1,898,000
					907,000	製造間接費	907,000
						製造原価	4,232,000
						完成品数量	80個
						製品単価	¥ 52,900

3

(1)

ア	3	イ	5
---	---	---	---

(2)

a	当月の1級製品の製造原価 ¥ 2,880,000	b	当月の2級製品の売上原価 ¥ 1,964,000
---	--------------------------	---	--------------------------

(3)

a	月末仕掛品の標準原価 ¥ 636,000	b	賃率差異 ¥ 18,000 (有利)
c	製造間接費差異 ¥ 26,000 (不利)		

(4)	a	販売数量が4,000個のときの貢献利益 ¥ 1,440,000	b	損益分岐点の高 ¥ 1,500,000	c	目標営業利益¥540,000を達成するための売上高 ¥ 3,300,000
-----	---	---------------------------------	---	---------------------	---	---------------------------------------

4	(1)	借 方				貸 方			
		1/月 7日	A 組 製 造	800,000		素 材	800,000		
		12日	素 材 工 場 消 耗 品	3,400,000 78,000		買 掛 金	3,478,000		
		14日	B 組 製 造	1,680,000		素 材	1,680,000		
		20日	外 注 加 工 賃 料 電 力	806,000 138,000		当 座 預 金	944,000		
		25日	賃 金	1,820,000		所 得 税 預 り 金 健 康 保 険 料 預 り 金 当 座 預 金	146,000 81,000 1,593,000		
		3/日	① 組 間 接 費	90,000		工 場 消 耗 品	90,000		
			② A 組 製 造 B 組 製 造 組 間 接 費	1,204,000 516,000 86,000		消 費 賃 金	1,806,000		
			③ 組 間 接 費	81,000		健 康 保 険 料	81,000		
			④ A 組 製 造 B 組 製 造	400,000 393,000		外 注 加 工 賃	793,000		
			⑤ 組 間 接 費	563,000		電 力 料 保 險 料 減 価 償 却 費	132,000 45,000 386,000		
			⑥ A 組 製 造 B 組 製 造	574,000 246,000		組 間 接 費	820,000		
			⑦ A 組 製 品 B 組 製 品	3,598,000 2,750,000		A 組 製 造 B 組 製 造	3,598,000 2,750,000		
			⑧ 消 費 賃 金	1,827,000		賃 金	1,827,000		
			⑨ 賃 率 差 異	21,000		消 費 賃 金	21,000		

(2)	工 場 消 耗 品				A 組 製 造			
	1/1 前月繰越	48,000	1/31 組間接費	90,000	1/1 前月繰越	978,000	1/31 A組製品	3,598,000
	12 買掛金	78,000	〃 次月繰越	36,000	7 素 材	800,000	〃 次月繰越	358,000
		126,000		126,000	31 消費賃金	1,204,000		
					〃 外注加工賃	400,000		
					〃 組間接費	574,000		
						3,956,000		3,956,000

(3)	組 別 総 合 原 価 計 算 表					
	平成〇年 / 月 分					
摘 要			A 組		B 組	
組 直 接 費			800,000		1,680,000	
素 材 費						
加 工 費			1,604,000		909,000	
組 間 接 費			574,000		246,000	
加 工 費						
当 月 製 造 費 用			2,978,000		2,835,000	
月 初 仕 掛 品 原 価			459,000		400,000	
素 材 費						
加 工 費			519,000		100,000	
計			3,956,000		3,335,000	
月 末 仕 掛 品 原 価			160,000		420,000	
素 材 費						
加 工 費			198,000		165,000	
完 成 品 原 価			3,598,000		2,750,000	
完 成 品 数 量			1,400個		2,000個	
製 品 単 価			¥ 2,570		¥ 1,375	